

■現況特性・主要課題

分野別	既定計画における現況特性・主要課題		住民意見による現況特性・主要課題 (◎：WS、○：勉強会、◇アンケート、□：メール等)	むつ市都市計画マスタープランの 主要課題（案） (◎：住民意見、○：既定計画、 ◇：市の現況、□：時代の潮流)
	旧むつ市都市計画マスタープラン (平成 7 年)	旧大畑町まちづくりプラン (平成 14 年)		
都市構造・ 将来のまちづく り	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域の中心都市として必要な高次のサービス機能集積が不足 ・下北圏の人口の長期低落化 ・人口増加が鈍化傾向にある ・高齢化の進展 		<ul style="list-style-type: none"> ◎コンパクトシティが望ましい ◎土地利用の規制が厳しい、独自の考え方があってもよい ◎都市計画区域、用途地域はむやみに広げなくていい ◎都市計画に大局的な戦略性がない ○用途地域内の空地が多い ○川内・脇野沢は田名部・大湊地区と比べて地域格差がある ◇田名部地区の役割は「下北半島の商業の中心を担う地区」 ◇大畑地区、川内地区、脇野沢地区の役割は「農林漁業の中心的な地区」 ◇大湊地区の役割は「広域的な交通の結節を担う地区」 □むつ市にとって現在以上の市街地の拡大は好ましくない ◎人口が減少している ◎人口減少が目立っており、世帯の収入も減少しつつある ◎人口増加につながる社会資本が整っていない ◎今後の人口減少を考慮したまちづくりが必要 ◎人口増加のための産業誘致が必要 ◎合併後の町が 1 つにまとまっていない ◎コミュニティが壊れかけている ◎他人の足を引っ張ることが多い ◎昔に比べて労働力が減っている ○将来の人口減、高齢化を踏まえたプランづくりが必要である ○都市計画マスタープランに人口減少、高齢化をどのように踏まえていくのが重要である 	<p>【都市構造】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎下北圏域の中心的役割を担う都市構造を検討する必要があります。 ◎市内の都市化を図る地区と保全する地区を明確に区分する必要があります。 ◎それぞれの地区の役割を位置づけ、地域間のネットワークを強化する必要があります。 □人口減少を見据えたコンパクトなまちづくりが求められています。 ◎地域コミュニティの維持を図る必要があります。 ○自然、歴史、文化、産業、科学技術関連施設等の集積など、個性を活かした地域づくりを推進していくことが必要となっています。
土地利用	住宅地	<ul style="list-style-type: none"> ・用途地域外での宅地化の進展 ・基盤未整備地区での宅地化（スプロール） 	<ul style="list-style-type: none"> ◎住宅市街地が空洞化している ◎土地区画整理事業が行われていない ◎土地利用が整序されていないため行き止まり道路が多い ◎第一種低層住居専用地域内で建物の老朽化が目立つ ◎市街地において、宅地化が虫食い状態に進められている ◎住宅が郊外に移っており、空洞化している 	<p>【住宅地】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎木造住宅密集地の改善や行き止まり道路の解消など、住環境の向上を図る必要があります。 ◎市街地外への無秩序な住宅地の広がりを抑制していく必要があります。 ◇主要な集落の住環境の向上を図る必要があります。 ○木造住宅などの既存ストックを活用した住環境の整備を図る必要があります。
	産業全般	<ul style="list-style-type: none"> ・半島性の影響を受けない産業構造の形成 ・地場産業の振興 ・豊かな環境に恵まれたゆとりある定住都市の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・大畑町を支えてきた基幹産業であるイカを中心とする漁業、ヒバを中心とする林業、及びそれらの関連加工産業はいずれも極めて厳しい状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎産業が少ない ◎雇用が少ない ◎若者がむつに戻って働ける場所がない ◎下北半島全体の産業経済の大きな変化を認識する必要がある ヒバ⇒練場⇒イカ釣 ◎労働力の減少、誘致企業の撤退、漁業も農業もやる人がいなくなっている ○就業先が減っていると感じる

分野別	既定計画における現況特性・主要課題		住民意見による現況特性・主要課題 (◎：WS、○：勉強会、◇アンケート、□：メール等)	むつ市都市計画マスタープランの 主要課題(案) (◎：住民意見、○：既定計画、 ◇：市の現況、□：時代の潮流)	
	旧むつ市都市計画マスタープラン (平成7年)	旧大畑町まちづくりプラン (平成14年)			
土地利用	商業地	<ul style="list-style-type: none"> 大湊地区の商業の不振 第3次産業に特化した就業構造 	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地商店街の活力は人口減、購買層流出等により失われつつあり、活性化、多様化が課題 中心商店街の活力低下が目立っている 商業者自身による、消費者に歓迎される魅力的な店舗づくり 商店街での土地価格の平準化や土地集約等による施設や住宅の整備、路地や裏地を活かした多様でおもしろい歩行空間や耕作地・林系・景観等の創出 生産～販売～消費のネットワーク形成による地域経済循環の促進、主要街路での歩行者優先化と商店街の積極的関与によるコミュニティ形成 	<ul style="list-style-type: none"> ◎地域ごとの商業拠点がない ◎中心市街地が衰退している ◎中心市街地が消滅している ◎商店街がバラバラになっている ◎商店街が空洞化している ◎商店街がシャッター通りとなっている ◎若者の遊戯施設がないため、休日等は市外へ人がながれている ◎田名部駅が無くなってから、田名部商店街が低迷している ◎田名部駅が無くなって街が変わった ◎郊外のショッピングセンターなどの大型店が規制されていない ◎用途地域外へ商業が広がっている ◎商店街が弱体化すれば祭りやイベントができなくなり、伝統文化がなくなる ◎先進地の視察の結果、むつ市に戦略性がない ◎商店の空き店舗が多い ◇「商店街のまち並みがきれい」は評価が低い ◇「自動車を利用した買い物が便利」は評価が高い ◎車のない人が買い物に行ける所がない ◎毎日の必需品を買う所がない ◎自衛隊の人たちが遊べるところがない ◎夜の町が楽しくない ◎むつ地区のスーパーは明らかに過剰であり、体力勝負では地元企業が不利である □田名部地区を下北全域の中心地として位置づけることが重要である □祭りを中心とした田名部地区の活性化が必要である □商業業務拠点の確立のため、既存商店街の活性化が必要である 	<p>【商業地】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎田名部・大湊・大畑などの旧来からの商業地の空洞化を改善するため、各商業地の機能を明確に位置づける必要があります。 ◎幹線道路沿いの商業地の広がりを抑制する必要があります。 □中心市街地の賑わいの再生と魅力ある商業地づくりを進める必要があります。 ◎交通の利便性への配慮や、徒歩による買い物など、各商業地の役割について明確な位置づけを図る必要があります。
	工業地	<ul style="list-style-type: none"> 工業振興の立ち遅れと零細な企業構成 原子力・むつ小川原開発に関連する産業機能集積 下北圏内をマーケットとするサービス型工業育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◎中間貯蔵施設を安全だと思っている市民は多いのか ◎家内工業程度はあるが大きな事業所はない ◇「働く場所としての工場・事業所などが十分にある」は特に評価が低い 	<p>【工業地】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇市と下北圏域の地域特性を活かした新たな産業育成を支援する基盤づくりを進める必要があります。 ◇臨港地区などの低未利用地を有効活用していく必要があります。 	
	農地	<ul style="list-style-type: none"> 農林水産業の経営近代化と産業構造の変化による第1次産業就業人口の減少傾向 米や牛肉の輸入自由化による環境の悪化 後継者不足等による就業者の減少、高齢化、婦女子化 	<ul style="list-style-type: none"> ◎農地は緑地としてのみならず、大気冷却、貯水・遊水、開発抑制・境界形成等の効果を有しており、その管理・利用方策の適正化が必要 ◎樹木や森との接し方、森と暮らしの係わりに関する学習、森林資源の活用と育成の対策、森林資源の地域循環の仕組みづくり、造林で成り立つ林業の仕組みづくり、森林の区分化に取り組み、豊かな森林づくりにより地域と暮らしの持続可能性を高めることが課題 ◎地域の消費者・商業者との連携の強化を図り、低投入持続型・労働集約型農業で有機栽培、無低農薬栽培等の作物生産を行い、地元での経済循環の強化を図るなど、魅力ある農業づくりへのチャレンジ 	<ul style="list-style-type: none"> ○農地があっても、むつ市内にその農地を使う人がいない ◎農業が不振である ◎熊、猿、鹿などによるレタスへの被害が拡大している ◎人口減少、核家族化、少子高齢化などから世帯あたりの労働力が激減している ◎後継者問題など農業を続けられないため、耕作放棄地が増えている ◎大規模農業で機械を購入した農家は借金返済のために農業を辞めるに辞められない ◎山林の間伐不足(木の単価が安く採算がとれない) ○地元で農業以外の職場が少なく、若い人たちが地元に戻ってこない 	<p>【田園地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇農地を保全・維持するため、農業の活性化を図る必要があります。 ◇加工業などの他の産業と連携した農業の活性化を図る必要があります。 ◎耕作放棄地の保全・有効活用の方法を検討していく必要があります。

分野別	既定計画における現況特性・主要課題		住民意見による現況特性・主要課題 (◎：WS、○：勉強会、◇アンケート、□：メール等)	むつ市都市計画マスタープランの 主要課題(案) (◎：住民意見、○：既定計画、 ◇：市の現況、□：時代の潮流)	
	旧むつ市都市計画マスタープラン (平成7年)	旧大畑町まちづくりプラン (平成14年)			
土地利用	港湾地域	<ul style="list-style-type: none"> 主力のほたて貝の不振 	<ul style="list-style-type: none"> 農地、海岸・河岸沿いなどでは、自然の保全に配慮した計画的な土地利用が必要 漁業の安定的で魅力ある将来を確保するため、森林(山)～川～海の水系と生態循環の確立、環境ホルモン・油濁・泥土等による海の荒廃防止、省エネ・省資源操業の推進などを図ることが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ◎河川工事、海の工事にムダ遣いが多いことと、環境破壊がみられる ◎脇野沢などの海岸が磯やけし、荒れている ◎海岸の保全方法が難しい(海産物の保護) ◎旧田名部川は川の流れが悪く、水質が悪化しているため、湾の環境も考えるべきである ◎湾の改良等を行う場合は、水質等の環境を考えてほしい ◎漁業が衰退している ◎良い浜があるが、水が汚い ◎観光・レクリエーション面での漁業とのふれあいがあまりない ◎漁業の後継者が不足している 	<p>【港湾地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎旧来からの漁港を維持していくため、港湾施設を有効活用していく必要があります。 ◎水質の悪化を防ぐため、上流での無秩序な開発を抑制する必要があります。
	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> 当町域のうち森林が95%を占めており、そのうち90%は国有林であり、地域のニーズに対応した森～海に至る自然資源の計画的保全育成が必要 市街地南部の農地(氾濫原)では宅地のスプロールが発生しているが、防災の観点からも自然状態の保全が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ◎山、自然を開発しすぎる ◎まちなかに緑が不足している ◇「海・山・川・農地などの自然が昔と変わらず残っている」は評価が高い □大湊地区は海との連携を強化し、海と親しめるまちづくりを目指すことが必要である 	<p>【自然環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎豊かな自然環境の維持、保全を図り、次世代に継承していく必要があります。 ◎海・山・川などの昔ながらの美しい景観を維持していく必要があります。 	
都市施設	道路	<ul style="list-style-type: none"> 大湊地区西部の国道338号の混雑 中心部の国道338号の混雑 道南地域との交流拡大(道路整備) 域内・都市内交通ネットワークの整備 	<ul style="list-style-type: none"> 生活道路の充実化、積雪対策、歩行者や自転車に優しく回遊性の高いルート整備等、現実に即した対策を図ることが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ◎道路整備が進んでいない ◎住宅地の道路が行き止まりになっている ◎市街地内の水田でミニ開発が行われ、行き止まり道路が多い ◎生活道路が整備されていない ◎都市計画道路が整備されていない ◎地域間道路が整備されていない ◎歩道のない道路が多い ◎側溝の未整備が多い ◎青森市との行き来がしやすい道路がない ◎第1次産業のための流通路が十分に確保されていない ◎道路整備のための財源の確保 ◎行き止まり道路や消防車が通れない道路がある ○道路がなかなか広くならない ○長期に渡って整備されていない都市計画道路がある ◇「歩道が整備されており安心して歩ける」は評価が低い □市内の歩道が狭い □田名部地域を下北全域の交通結節点として整備することが必要である □都市計画道路の早期着工・完成が望ましい □通学路の整備及び電柱の撤去が必要である 	<p>【道路】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎県内主要都市との連絡を強化する下北縦貫道路の整備を促進する必要があります。 ◎合併により広域化した地域間の交流を促進するため、幹線道路の整備を進める必要があります。 ◎防災面や生活環境の向上のため、住宅地内などの行き止まり道路の解消を促進する必要があります。 ○積雪対策やバリアフリーなどの安全で快適な歩行空間を確保し、回遊性の強化を図る必要があります。 □都市計画道路の見直し、各路線の機能の検討を図る必要があります。
	公共交通機関	<ul style="list-style-type: none"> 半島性の克服を目指した交通基盤整備 高速交通体系へのアクセス性の改善(高規格道路、コピューター航空、海上交通) 公共交通の利用者減少 高速交通体系へのアクセス性に欠ける 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者減少のためサービス水準が低下しており、交通弱者のためにもその機能の維持更新が不可欠 	<ul style="list-style-type: none"> ◎鉄道やバスが不便。循環バスが必要 ◎田名部のバスターミナルとJRの駅が遠いので、下北駅をターミナル化して欲しい ◎下北交通とJRバスの連携(乗り継ぎ)が悪い ◎バスの運行本数が減少し、買い物などの移動が不便 ◎JR大湊線が強風により、よく止まるため使いにくい ◎まちなかを含め、交通が不便である ◎半島であるがため、開発に重要な交通体系の整備が遅れている ◎自動車がないと生活できない ◎大都市へのアクセスの整備の遅れが、生産地の形成を阻害している ◎高齢者の移動が困難である ◎流通経路が限られているため、競争力が弱い ○中心部に行く路線バスが不便である ◇「路線バスや鉄道を利用した行動が便利」は評価が低い 	<p>【公共交通機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交通機関が高齢者や障害者など誰にでも利用しやすいまちづくりを進める必要があります。 ◎市民の日常生活を支えるバス交通の維持・充実を図る必要があります。 ○広域的な交通(鉄道・海上)を維持していく必要があります。 ◇現在の自動車依存の交通状況から脱却し、公共交通機関に移行させる方法を検討する必要があります。

分野別	既定計画における現況特性・主要課題		住民意見による現況特性・主要課題 (◎：WS、○：勉強会、◇アンケート、□：メール等)	むつ市都市計画マスタープランの 主要課題(案) (◎：住民意見、○：既定計画、 ◇：市の現況、□：時代の潮流)	
	旧むつ市都市計画マスタープラン (平成7年)	旧大畑町まちづくりプラン (平成14年)			
都市施設	公園・緑地	・公園の不足	<ul style="list-style-type: none"> ◎都市としての社会資本が未整備である ◎身近な公園が少ない ◎小川町児童公園は水処理が不十分で、いつも湿っていて子供が遊べない ◎街灯(照明)が不足している ◎住宅地に児童公園が整備されているが、利用者が少ない公園もある ◎ニーズが多様化しており、遊具などの対応ができていない ○公園等を整備してもあまり利用されていない □代官山公園へのアクセス道路を整備する必要がある 	<p>〔公園緑地〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎公園・緑地が不足している地域には、地域の特性にあった公園・緑地の整備を進める必要があります。 ◎既存の公園・緑地はニーズにあった利用、適切な維持管理を進める必要があります。 	
	下水道・河川	・河川の水質汚濁	<ul style="list-style-type: none"> ◎砂防ダム建設による自然破壊 ○下水道事業が進んでいない ◇「水害を防ぐための河川や水路が整備されている」は評価が高い □田名部川、明神川等の自然環境に配慮した河川改修を進める必要がある 	<p>〔下水道・河川〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎生活環境の向上を図るため、下水道の整備を進める必要があります。 ○市街地の防災性の向上を図るため、環境にも配慮した河川整備を進める必要があります。 	
	公益的施設	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の生徒不足教室の発生 ・地域医療の充実、及び高度化 ・高次の都市機能の集積 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設を利用した町民の生涯教育や児童の夏季学校としての利用など総合化、多目的化を行い、施設の適切な利用運営や地域の活性化を図ることが課題 ・図書館の整備充実化が必要 ・縄文遺跡出土物などを収蔵・展示できる施設がないなど、町の歴史文化を継承していく拠点、生涯学習を支援するプログラム及び実施場所施設が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ◎用途地域以外に公共施設が移転している ◎市役所の跡地が利用されていないなどの市街地内の拠点づくりに計画性がない ◎医療施設が質、量ともに不足している。高度医療施設の充実とそこに至る道路整備が必要 ◎原燃施設を観光面でもっと生かすべき ◎海上自衛隊施設やOBの方を活かして、海洋面での活性化が図れないか ◎新むつ市全体を考えた施設の配置ができないか ◎廃校舎、旧市役所庁舎を博物館、展示場(郷土館)に活用する ◇「子育て支援施設が整備されている」は評価が低い □ショッピングセンター跡地等を有効活用する必要がある □むつ総合病院への緊急ヘリポートの整備が必要である 	<p>〔公益的施設〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎医療・福祉に関連する施設・機能の充実を図る必要があります。 ◎統廃合や施設移転による既存ストックの有効活用を図る必要があります。 ○文化を継承するための施設を整備する必要があります。 ◎バリアフリー化や子育てを支援する生活環境に配慮した施設の充実を図る必要があります。
	観光	<ul style="list-style-type: none"> ・夏型観光、通り過ぎ観光で市経済への寄与が少ない ・下北半島の魅力を活用した地域づくり ・観光の振興 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光業が停滞している ・多様な地域財産を観光資源として捉え直し、物語性・刺激性がある、広がりや深みのある観光対策を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◎恐山等の観光客を市内にとどめられない ◎下北以外から観光客を呼ぶためのPRが不足している ◎むつ市の特産物などを全国にアピールするソフトが整っていない ◎地域のアピールするハードはあっても、ソフトが不足している ◎「下北でしか手に入らない」というものがない ◎家族連れで遊べるような複合的な施設がない ◎メディア等を使ったPRが不足している ◎体験型観光の提案が必要 ◎夜の町を楽しくする(ゲーム等の仕掛け) ◎観光面の宣伝ができていない ◎下北は秘境が売りになっている ◎大畑地区に宿泊施設がない ◎道路整備が行われると観光客は、宿泊せずに通過してしまう ◎新幹線の八戸-新青森間の開通が目前となっている ◎むつ市の特産品があまり知られていない ◎文化財はたくさんあるが、市内に博物館がない ○地区内に観光資源はいっぱいあるが十分に活用されていないのでPR方法に工夫が必要である ○観光資源は確かにあるが、それを活かして地域を活性化させようという動きはあまり見られない ◇「観光施設が十分に整備されている」は評価が低い 	<p>〔観光〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎自然や歴史文化資源を活かした観光振興を図る必要があります。 ◎体験型観光など交流を支援する施設・機能の充実を図る必要があります。 ◎観光地や特産物などの情報を発信する仕組みづくりを進める必要があります。 ◇下北圏域の観光施設を連絡する観光ネットワークづくりを進める必要があります。 ○通年観光となる冬の魅力の発掘など、下北半島の魅力を活かした観光振興を図る必要があります。 ◎観光客にとって観光に来やすい、利便性の高い交通施設整備を進める必要があります。

分野別		既定計画における現況特性・主要課題		住民意見による現況特性・主要課題 (◎：WS、○：勉強会、◇アンケート、□：メール等)	むつ市都市計画マスタープランの 主要課題(案) (◎：住民意見、○：既定計画、 ◇：市の現況、□：時代の潮流)
		旧むつ市都市計画マスタープラン (平成7年)	旧大畑町まちづくりプラン (平成14年)		
都市環境	都市景観	都市的魅力的創出 ・地域の中心都市として、各種サービス・ アメニティの充実		□市街地や幹線道路が通る郊外の都市景観整備が必要である	□海・山・川・田園などの自然景観の保全 を図る必要があります。 □都市施設などの整備・改善による景観づ くりが求められています。 □魅力的な都市景観を形成するための景観 計画づくりを検討する必要があります。
	都市防災				□木造住宅密集地や幅員の狭い道路など、 火災の発生と延焼が懸念される地区の防 災対策が必要となっています。 ○災害に強い陸上交通、海上交通等の整備 充実を図る必要があります。
その他				◎財政が逼迫している ◎街路樹の清掃など地域のリーダーが不在である ◎地域の住民性の問題がある ○合併時に策定されたまちづくりの計画を検証する必要がある ○これまでに策定された計画にある将来像を、今後の計画に継承していく べきである ○過去のまちづくりの計画が進んでいない。市の施策が実行されていない	□官民協働のまちづくりを進め、情報公開 とその過程の透明性を確保する必要があります。